

函館市医療・介護連携推進協議会
多職種連携研修作業部会 第18回会議

日時：令和5年10月2日（月）19：00～

場所：医師会病院 5階講堂

【次第】

1 開 会

2 議 事

○報告事項

1. 令和5年度 多職種連携研修計画 進捗状況（資料1, 2）
2. 令和4年度の研修について（資料1）
3. 研修情報の一元化と提供について（資料3）

○協議事項

1. 第8回 函館市医療・介護連携多職種研修会について（資料4, 5, 6）
 - (1) グループワークのテーマ
 - (2) グループワークの進め方

3 その他

4 閉 会

【配付資料】

資料1：報告事項

資料2：令和5年度 多職種連携研修計画実績および予定表

資料3：ホームページ上で掲載した研修情報一覧（令和5年4月～令和5年9月）

資料4：研修概要書（第8回 函館市医療・介護連携多職種研修会）

資料5：タイムテーブル

資料6：グループワーク素案

函館市医療・介護連携推進協議会 多職種連携研修作業部会
第18回会議 出席者名簿

※★…部会長および副部会長 ○…幹事

(敬称略)

分野	所属団体	氏名	勤務先等
	公益社団法人 函館市医師会	○幹事 花輪 拓哉	函館市医療・介護連携支援センター
	一般社団法人 函館歯科医師会	川村 曜補	カワムラ歯科クリニック
	一般社団法人 函館薬剤師会	★部会長 水越 英通	(株)はこだて調剤薬局昭和店
	公益社団法人 北海道看護協会 道南南支部	鹿角 悼司 ※欠席	特定医療法人 富田病院
	道南在宅ケア研究会	川口 篤也	医療法人道南勤労者医療協会 函館稜北病院
	函館地域医療連携実務者協議会	船山 俊介 ※欠席	社会福祉法人函館厚生院 函館五稜郭病院 医療総合サービスセンター
	一般社団法人 北海道医療ソーシャルワーカー協会 南支部	★副部会長 阿部 綾子	医療法人社団 函館脳神経外科病院
	北海道柔道整復師会函館ブロック	室田 多哉	室田整骨院
	函館鍼灸マッサージ師連絡協議会	益井 基	益井東洋治療院
介護	函館市居宅介護支援事業所連絡協議会	宮城 智美	居宅介護支援事業所 医療法人社団 函館脳神経外科病院
	函館市地域包括支援センター連絡協議会	京谷 佳子	函館市地域包括支援センター ゆのかわ
	函館市訪問リハビリテーション連絡協議会	山上 雄大	社会医療法人仁生会 訪問リハビリテーション西堀病院
	道南地区老人福祉施設協議会	齋藤 禎史	特別養護老人ホーム シンフォニー

1. 令和5年度 多職種連携研修計画 進捗状況（資料2）

（1）相互理解の促進

①オープンカンファレンス

共 催：市立函館病院

日 時：令和5年11月29日（水）18：30～20：00 ※予定

場 所：市立函館病院2F 講堂

②研修会等コーディネート

各関係団体窓口一覧の更新 令和5年9月7日更新内容掲載済み

（2）連携強化

①看取り

（ア）人生の最終段階における医療・ケア体制整備事業

本人の意向を尊重した意思決定のための相談員研修会

在宅医療・施設ケア従事者版 E-Field Home 函館開催

～生活の場・暮らしの場におけるガイドラインの活用およびACP～

日 時：令和5年6月10日（土）9：30～17：30

場 所：函館市民会館 展示室

対 象：函館市，北斗市，七飯町の医療・介護関係者

講 師：道南勤医協函館稜北病院

川口 篤也 様

宇都宮宏子オフィス

宇都宮 宏子 様

あおいけあ

加藤 忠相 様

医療法人社団 悠翔会

佐々木 淳 様

山梨市立牧丘病院

古屋 聡 様

慶応義塾大学医学部コミュニティヘルス研究機構

山岸 暁美 様

参加人数：74名（うち修了証発行人数 71名）

（イ）はこだて関係団体共催研修会

日 時：令和5年6月11日（日）13：30～16：30

場 所：競輪場テレシアター

対 象：地域の医療・介護関係者

講 師：道南勤医協函館稜北病院

川口 篤也 様

宇都宮宏子オフィス

宇都宮 宏子 様

あおいけあ

加藤 忠相 様

医療法人社団 悠翔会

佐々木 淳 様

山梨市立牧丘病院

古屋 聡 様

慶応義塾大学医学部コミュニティヘルス研究機構

山岸 暁美 様

内 容：ACP にまつわる内容にて開催

「病院の移行期からの在宅・施設場面での意思決定支援について」

参加人数：123名

②看取り&連携強化

第8回函館市医療・介護連携多職種研修会

日 時：令和5年10月21日（土）14：00～17：00 ※予定

場 所：函館国際ホテル

テーマ：「点から線につながろう」

～本人の想いを聞いてますか？連携による地域の変化と今後の課題～

目 的：多職種連携によるこれまでの地域の変化と今後の課題を共有し、本人の想いを叶える支援力を高めるために、医療・介護の連携と協働を強化する。

対 象：函館市・北斗市・七飯町の医療・介護関係者

座 長：道南勤医協函館稜北病院 副院長 川口 篤也 様

内 容：【連携による地域の変化と課題】

・急変時対応の場面での取組報告

「高齢者救急医療」の現状

市立函館病院 救命救急センター センター長

武山 佳洋 様

・入退院支援の場面での取組報告

「おうちに帰りたい」を叶えるために ～看護師の私ができること～

函館五稜郭病院 地域連携・PFM センター 看護師主任

井上 美佳 様

【本人の想いを叶えるための支援】

・日常の療養支援から看取りの場面での取組報告

「自分らしい生き方」に寄り添う

小規模多機能ホーム らしさ七重浜 ホーム長

波並 孝 様

※協議事項のため別紙参照

③入退院支援

(ア) 入退院支援連携強化研修会（ガイド編）

日 時：令和5年11月17日（金）18：30～20：00 ※予定

場 所：函館市医師会病院5階講堂

テ ー マ：（仮）関わっているその人のイメージの共有、ずれているかも？

～病院・在宅間のずれないイメージの情報共有とは～

開催方法：集合開催

研修形態：事例をもとに、グループワーク

参加人数：40名ほど

(イ) 入退院支援連携強化研修会（サマリー編）

○函館市医師会 在宅医療医会 第1回研修会

共 催：道南 Medlka, 函館市医療・介護連携推進協議会（情報共有ツール作業部会）

日 時：令和5年9月29日（金）18：30～19：00

場 所：函館中央病院 南棟8階講堂

テ ー マ：かかりつけ医の行う在宅医療 ～ICTの活用と多職種連携～

開催方法：集合開催

座 長：函館稜北病院 副院長 川口 篤也 様

講 師：北美原クリニック 岡田 晋吾 様

○令和5年度 函館市医療・介護連携 ID-Link 活用推進研修会

共 催：道南 Medlka

日 時：令和5年12月2日（土） ※予定

場 所：市民会館 大会議室

開催方法：集合開催

内 容：[講演]道南勤医協函館稜北病院 副院長 川口 篤也 様

[活用実践発表]

・医療関係者から「(仮)施設とのID-Link連携について」

発表者：高橋病院 訪問診療室 室長 山田 佳世 様

・介護関係者から「(仮)在宅支援チーム内でのID-Link連携について」

発表者：訪問看護ステーションフレンズ 統括所長 保坂 明美 様

④急変時対応

令和5年急変時対応研修会

日 時：令和6年2月 ※予定

場 所：未定

開催方法：集合開催

研修形態：シンポジウム形式にて行う予定

シンポジスト：医療側～市立函館病院 救命救急センター センター長 武山 佳洋 様

介護側～検討中

救急救命士の方を予定

(3) 多職種連携の専門性の向上

・令和5年6月29日（木）在宅歯科医療連携室との意見交換会

・令和5年9月21日（木）函館市医師会病院地域医療支援病院講演会

(4) 人材育成

センター主催研修会への見学参加（各医療・介護系の学校への案内）

2. 令和4年度の研修について（未報告分）

(ア) 令和4年度 入退院支援連携強化研修会（ガイド編）

日 時：令和5年3月28日（火）～4月30日（日）

テ ー マ：「ここが知りたい！入退院時の医療・介護の連携」
～会えない！行けない！どうしてですか？～

開催方法：動画研修

研修形式：パネルディスカッション

対 象：函館市，北斗市，七飯町の医療・介護関係者

座 長：函館市地域包括支援センター連絡協議会 保 健 師 : 福島 久美子 様

講 師：函館市居宅介護支援事業所連絡協議会 主任ケアマネジャー：高橋 淳史 様

一般社団法人 北海道MSW協会南支部 医療相談員 : 岩城 朋美 様

道南訪問看護ステーション連絡協議会 看 護 師 : 高橋 陽子 様

函館地域医療連携実務者協議会 看 護 師 : 奥山 ちどり 様

道南在宅ケア研究会 医療相談員 : 廣瀬 量平 様

内 容：①発表者の職種での困り事や工夫した事の発表
②入院直後，入院中，退院時についてディスカッション

申込人数・閲覧件数・閲覧人数：

	申込人数	閲覧件数	閲覧人数
函館市	479	281	543
ほくと・ななえ	98	65	144
その他	1	1	1

※森町

(イ) 令和4年度 急変時対応研修会

日 時：令和5年5月15日（月）～令和5年6月18日（日）

テ ー マ：急変時対応「それぞれの立場で思うあれこれ」
～急変の一つ手前でできること～

開催方法：動画研修

研修形態：シンポジウム形式

対 象：函館市，北斗市，七飯町の医療・介護関係者

座 長：こにし内科・心臓血管クリニック 院長 小西 宏明 様

内 容：「急変時対応 ～いつもと違う！その気付き」

地域密着型特定施設ケアホームくうら 施設長 関 雅之 様

「急変時対応 ～訪問看護における急変の一つ手前でできること」

函館訪問看護ステーション 所長 山本 裕美子 様

「急変時の一つ手前でできること

～救急搬送が必要になる前に気付ける視点、その症状～」

こにし内科・心臓血管クリニック 院長 小西 宏明 様

申込人数・閲覧件数・閲覧人数：

	申込人数	閲覧件数	閲覧人数
函館市	824	537	1016
ほくと・ななえ	186	85	175
その他	3	3	3

※江差2件，砂原1件

【令和5年度 多職種連携研修実績および予定表】

目的（テーマ）	内容	形式				定員	時期
		規模（会場）	形態	対象者	レベル		
(1) 相互理解の促進	①オープンカンファレンス	中規模	対話体験（事例報告）	医療・介護関係者	初級～上級	100名程度	11月29日（木）（予定）
	② 研修会等コーディネート 各関係団体窓口一覧の内容変更の有無を確認	—	—	—	—	—	9月7日更新済み
(2) 連携強化	①看取り （ア）人生の最終段階における医療・ケア体制整備事業 本人の意向を尊重した意思決定のための相談員研修会 在宅医療・施設ケア従事者版 E-Field Home 函館開催 ～生活の場・暮らしの場におけるガイドラインの活用およびACP～	中規模 （市民会館展示室）	混合型 （座学・GW・個人ワーク）	医療・介護関係者	中級～上級	80名程度	6月10日（土）（終了）
	（イ）はこだて関係団体共催研修会 ACPにまつわる内容にて開催。病院の移行期からの在宅・施設場面で 意思決定支援について。	大規模 （テレシアター）	対話体験型 （シンポジウム）	医療・介護関係者	中級～上級	200名程度	6月11日（日）（終了）
	②看取り&連携強化 ・第8回函館市医療・介護連携多職種研修会 『点から線につながる ～本人の想いを聞いてますか？連携による地域の変化と今後の課題～』	大規模 （国際ホテル）	対話体験型 （シンポジウム・GW）	医療・介護関係者	中級～上級	250名程度	10月21日（土）（予定）
	③入退院支援 （ア）「入退院支援連携強化研修会（ガイド編）」（退院支援分科会主催）	小規模 （医師会病院）	対話体験型 （GW）	医療・介護関係者	中級～上級	40名程度	11月17日（金）（予定）
	（イ）「入退院支援連携強化研修会（サマリー編）」（情報共有ツール作業部会主催） （案）令和5年度 函館市医療・介護連携ID-Link活用推進研修会 ※各団体・機関との共催、退院支援分科会・情報共有ツール作業部会との協働	中規模 （市民会館大会議室）	対話体験型 （シンポジウム）	医療・介護関係者	中級～上級	100名程度	12月2日（土）（予定）
	④急変時対応（急変時対応分科会実務者会議主催） 「令和5年急変時対応研修会」	中規模	対話体験型 （シンポジウム・GW）	医療・介護関係者	中級～上級	100名程度	R6年2月（予定）
(3) 多職種連携の 専門性の向上	（ア）在宅歯科医療連携室との意見交換会	小規模 （歯科医師会館）	対話体験型	医療・介護関係者	初級～中級	30名程度	6月29日（木）（終了）
	（イ）函館市医師会病院地域医療支援病院講演会	小規模 （医師会病院）	講師：センター職員	医療・介護関係者	初級～中級	50名程度	9月21日（木）（終了）
(4) 人材育成	センター主催研修会への見学参加 ※各医療・介護系の学校への案内	随時	見学・座学講義	医療・介護学生 （教員）	未経験者	数名	随時

※ 新型コロナウイルスの状況等により、研修会の中止および開催時期、方法等が変更となる場合があります。

ホームページ上で掲載した研修情報一覧（令和5年4月～令和5年9月）

月	研修名称（団体名）	件数
4月		0件
5月	『膝・股関節 臨床の実際～保存療法から人工関節まで～』R5年5月27日開催 （函館鍼灸マッサージ師連絡協議会主催）	2件
	『宇都宮宏子の部屋』R5年6月12日開催 （訪問看護ステーションフレンズ主催）	
6月	第24回 道南摂食嚥下研究会 『食べる姿勢の基本をおさらいしよう！ ～実際に車いすやベッドを使って実習しましょう～』 （道南摂食嚥下研究会主催）	3件
	令和5年度 厚生労働省委託事業 人生の最終段階における医療・ケア体制整備事業 『本人の意向を尊重した意思決定のための研修会 在宅医療・施設ケア従事者版相談員研修会 ～生活の場、暮らしの場でのガイドラインの活用およびACP～』 （筑波大学主催）	
	『RIFCR™研修会』R5年6月24日、25日開催 （函館市、北海道子どもの虐待防止協会道南支部、函館中央病院主催）	
7月	令和5年度 函館市小児慢性特定疾病児童等自立支援事業 第1回療育支援講演会『私らしく生きる～社会生活編～』R5年7月29日開催 （函館市子ども未来部委託事業）	4件
	令和5年度道南在宅ケア研究会会員総会並びに第54回定例会 『地域包括支援センターの自立相談支援機関について知ろう』R5年8月18日開催 （道南在宅ケア研究会主催）	
	令和5年度南渡島地域包括緩和ケアネットワーク会員総会並びに第17回定例会 『認知症高齢者の緩和ケア』R5年8月30日開催 （南渡島地域包括緩和ケアネットワーク主催）	
	国立函館病院合同教育講座（在宅医療医会設立キックオフ タイアップ研修会） 『長崎在宅Drネット』R5年8月25日開催 （国立病院機構函館病院主催）	
8月	第1回家族交流ネットワーク学習会 『家族がいまできること』R5年9月9日開催 （北海道精神保健福祉士協会道南ブロック主催）	2件
	『在宅医療医会設立総会および第1回研修会』R5年9月29日開催 （函館市医師会在宅医療医会主催）	
9月	日本死の臨床研究会北海道支部『秋の研修会in函館』R5年10月14日開催 （日本死の臨床研究会北海道支部主催）	1件
合 計		12件

（その他）

ほくと・ななえ医療・介護連携支援センター主催 1件

函館市医療・介護連携支援センター主催 1件

各団体との共催 1件

函館市医療・介護連携支援センター、ほくと・ななえ医療・介護連携支援センター共催 2件

別紙1 研修概要書

名 称	第8回 函館市医療・介護連携多職種研修会
目 的	・多職種連携によるこれまでの地域の変化と今後の課題を共有し、本人（患者・利用者）の想いを叶える支援力を高めるために、医療・介護の連携と協働を強化する。
目 標	・本人の想いを叶える支援を目指し、医療・介護関係者が互いに努力・協力してきたこれまでを共有する。 ・本人の想いを叶える支援のため、今後の多職種連携の必要性を考える。 ・上記を踏まえ、明日から自分たちができることを考える。
共 催	函館市（函館市医療・介護連携推進協議会） 函館市医師会 （函館市医療・介護連携支援センター、ほくと・ななえ 医療・介護連携支援センター）
日 程	令和5年10月21日（土） 14：00～17：00（13：30～受付開始） ※研修終了後、関係多職種間の「顔の見える関係づくり」や率直な意見交換を目的とした懇親会を予定 （懇親会は状況により中止となる場合がございます）
会 場	函館国際ホテル （住所：函館市大手町5-10 電話：23-5151）
テ ー マ	「点から線につながろう」 ～本人の想いを聞いていますか？連携による地域の変化と今後の課題～
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウム （座長） 医療法人道南勤労者医療協会函館稜北病院 副院長 総合診療科科長 川口 篤也 先生 （登壇者） 【連携による地域の変化と課題】 ○急変時対応の場面での取組報告 「高齢者救急医療」の現状 市立函館病院 救命救急センター センター長 武山 佳洋 様 ○入退院支援の場面での取組報告 「おうちに帰りたい」を叶えるために ～看護師の私ができること～ 函館五稜郭病院 地域連携・PFMセンター 看護師主任 井上 美佳 様 【本人の想いを叶えるための支援】 ○日常の療養支援から看取りの場面での取組報告 「自分らしい生き方」に寄り添う 小規模多機能ホーム らしさ七重浜 ホーム長 波並 孝 様 ・グループワーク ・意見交換・質疑応答
参加対象	函館市・北斗市・七飯町の医療・介護関係者
参加人数	250名程度 ※定員になり次第、締め切らせていただきますので、お早めにお申込みください。
参加費用	無料（懇親会参加費用は別途掛かります ※金額は3,500円程度）
備 考	アンケート実施

タイムテーブルおよび役割分担表

令和5年10月21日(土) 14:00~17:00 (開場 13:30)

●司会：水越 英通様 ●サブ司会：阿部 綾子様

●座長：川口 篤也先生

●開会挨拶：調整中 ●閉会挨拶：小西 宏明先生

時刻	タイトル	主な講師	時間	備考
13:30	開場	司会	—	会場誘導係
14:00	開会挨拶／趣旨説明	司会 挨拶者	5分	カメラ係
14:05	≪シンポジウム開始≫／座長挨拶	座長 川口先生	5分	
14:10	講演①	講師 武山様	20分	
14:30	講演②	講師 井上様	20分	
14:50	講演③	講師 波並様	20分	
15:10	休憩	司会	10分	
15:20	グループワーク説明	サブ司会	5分	カメラ係
15:25	グループワーク	サブ司会	50分	
16:15	グループワーク発表・意見交換～総評	座長 講師	40分	カメラ係 マイク係
16:55	閉会挨拶／アンケート依頼／懇親会案内	司会 挨拶者 小西先生	5分	カメラ係
17:00	アンケート記入，会場移動（懇親会出席者）	—	—	
小計			180分	
17:30	懇親会	懇親会司会	90分	
19:00	(終了)			
合計			270分	

グループワーク素案

- グループワーク参加者～〇〇〇名
(7人掛け×〇〇テーブル, 8人掛け×〇〇テーブル 最大33テーブル)
- 多職種でのメンバー構成。各グループに司会者をあらかじめ設定する
- テーマ ①感想(気づき, 心に響いたこと, 体験談等)
②明日から自分たちができること, その為に知っておきたいこと
- タイムスケジュール

15:20 (5分)	<グループワーク説明> ・グループワークの流れ, 時間配分, 注意点等・司会の説明 ・ファシリテーターの説明
15:25 (25分)	<テーマ①についてグループワーク> ・グループ全体での自己紹介 ・書記と発表者を決定 ・司会者の進行のもと, 個人意見をそれぞれ共有する。 ・書記は同じような意見をまとめたり, 追加で出た意見等を模造紙に追記していく。
15:50 (25分)	<テーマ②についてグループワーク> ・司会者の進行のもと, 個人意見をそれぞれ共有する。 ・書記は同じような意見をまとめたり, 追加で出た意見等を模造紙に追記していく。
16:15	グループワーク発表～3グループ シンポジストと会場参加者との意見交換 各シンポジストと座長より総評
	※意見交換会～総評の時間配分は座長にお任せする
16:55	終了

- 模造紙イメージ

「点から線につながろう」		
①感想(気づき, 心に響いたこと, 体験談等) ・ ・ ・ ・ ・ ・	②明日から自分たちができること ・ ・ ・ ・ ・	②その為に知っておきたいこと ・ ・ ・ ・ ・

○ ファシリテーターの役割

【グループワークのねらい】

- シンポジストの話を聞いた感想を共有する。
- 本人の想いを叶える支援を目指し、医療・介護関係者が互いに努力・協力してきたこれまでを共有する。
- 地域の変化を知ると共に課題を把握する。
- 本人の想いを叶える支援のため、今後の多職種連携の必要性を考える。
- 今、自分たちができていることに気づく。(本人の想いを叶える支援, ACP 等)
- 明日から自分たちができることを考える。

<テーマ①>止まっているグループ, または発言ができていない人がいたら介入

- シンポジストの取組報告を聞いての率直な感想を引き出す。(感じたこと, 心にグッと響いたこと, 自らの体験と重ね合わせて思い出したエピソード等)
- こんな感想で良いのか?と思うようなことでも発言の機会をもってもらおう。

【注意する点】

- 感想は, 個人が思ったり考えたりすることであるので, その感想に批判や指導をするような発言があった場合は適切に介入する。

<テーマ②>止まっているグループ, または発言ができていない人がいたら介入

- 明日から自分たちができることは何か?を考えられるよう, どんな事だったら始められるのか, 明日からできることに限らず, 少し先(将来)に向けてできそうなことでも良いので話してもらえるように促す。(どんな場面で意識的に利用者や患者と関わって本人の思いを聞けるか, ACP についての勉強会を職場で行ってみる等)
- 「今, 自分たちができていること」を気づく機会でもある事を伝える。(例えば, 些細な事柄や, 何気ない会話の中に本人の想いが隠れている, それらをもう既に聞けていることもあるはず, それをこの先, どう次のアクションにつなげるか等)
- 4つの場面(日常の療養支援, 入退院支援, 急変時対応, 看取り)について, 参加者は皆それぞれ何かしらの場面に関わっているはずなので, その経験を踏まえて話してもらえるように促す。経験の無い場面の話であっても他の人の話を参考にイメージを膨らませてディスカッションをしてもらう。
- 「その為に知っておきたいこと」があるようだったら整理してもらう。

【注意する点】

- 知りたい事, もっと知りたい事, 他職種へ聞きたい事の中で, 専門用語のレクチャーが長く続くような状況があった場合は適切に介入する。
(「そろそろテーマのディスカッションに戻りましょうか」「その話題(疑問)は, 全体の意見交換の時間に確認してみてもはどうでしょうか」等)

【発表グループの選定】

- ① ファシリテーター2人がペアになってもらい4～5グループ担当します。
- ② 各担当グループのうち、ねらいに沿った話ができているグループや、ぜひ全体で共有したいと思われるグループをペアのファシリテーターと相談して1グループを選定する。
- ③ 16：25（グループワーク終了10分前位）になったらシンポジスト席に集まり、選定グループを報告（全5グループになる予定）
- ④ ファシリテーターと座長，シンポジスト，センター間で相談して，発表してもらう順番を決める。（時間があれば全グループなければ3グループ程度）

※全体で共有した方がよいと思われる質問等があった場合は，意見交換の場面で対応する旨を伝え，発表に当たったグループは，②の「その為に知っておきたいこと」として話してもらう。当たらないグループは，意見交換会の場面で挙手していただく旨伝える。

【全体として気をつける事について】

- ・ 特定の人が話し続けるという状況があった場合は適切に介入する。
- ・ 特定の職種・事業所等の批判にならないように配慮してください。

<必要物品>

- ・ 模造紙（各テーブル1枚）
- ・ ボールペン（ネーム用紙の記入用として1～2本）
- ・ マジック（各テーブル赤・黒1本ずつ）